

学んで行動する議会へ

市政調査会

〔調査日〕

平成30年7月20日

〔参加議員〕
12名

道の駅「遠野風の丘」の機能充実整備計画について、施設配置図を見ながら見直し部分を中心に説明を受け、質疑応答をおこなった。災害時の防災機能充



4月1日に供用開始した附馬牛保育園・児童館

実については、防災館（仮称）を新設するのではなく既存建物と産業振興拠点施設（新設）を活用することになった。また国道から東側駐車場に直接出入りできる入退出路を新たに整備し、既存駐車場の拡張整備の見直し案が示された。

◆その他の調査事項

◆子育て支援施策の現状の調査

◆平成30年3月に落成した附馬牛保育園・児童館の現地視察

◆遠野みらい創りカレッジ改修整備事業について改修箇所を調査

議員有志

群馬県上野村・桐生市を視察

〔研修日〕

平成30年

8月8・9日

〔参加議員〕

萩野 幸弘
多田 勉
菊池 由紀夫
菊池 充
瀧澤 征幸
多田 誠一
安部 重幸
新田 勝見

◆上野村の雇用の創出とIターンの促進を視察

上野村は、平成元年度より、Iターン者を積極的に受け入れ始め、現在では総人口の20%の260人が定住し生活している。定住増加の理由は、村が主体となつて雇用の場を創出したことである。上野村は、交通条件や地形的な条件から企業誘致は期待できない状況にあり、新たな産業おこしと連動させて、各種施設の整備による雇用の場の創出に力を入れてきた。このことが、定住増加の実績につながっている。

◆桐生市の森産業(株)で乾いたけの現状と今後の生産対策を視察

全国の乾いたけ生産量は、減少傾向で推移。価格は、平成20年から25年にかけて約5割下落したが、その後



種駒培養室を視察

大幅に上昇し、平成28年度は、最高値を更新。植菌本数は減少傾向にあったが、平成27年度以降は微増傾向にある。今後の生産農家への対策としては、気候温暖化に対し遮光対策や灌水対策がコントロールできる施設や、山林内の発生環境の確保がポイントになる。

任 常 務 委 員 会 総 務 委 員 会 行 政 視 察

〔調査日〕

平成30年

6月26〜28日

〔調査研修箇所〕

島根県雲南市
躍動と安らぎの里鍋山
島根県安来市比田
えくひだカンパニー

〔参加議員〕

菊池 由紀夫
佐々木 大三郎
瀧本 孝一
浅沼 幸雄
安部 重幸
新田 勝見

〔同行職員〕

市民協働課長
萩野 弘美

◆新たな地域運営母体

雲南市では、様々な世代が「地縁」によるつながりをもとに連携し、多様な活動を行う住民組織「地域自主組織」が市内全域に結成されている。集落の課題を、現代に合わせて少しずつ方法を変えるため、主に小学校区を単位として組織が立ち上がっている。

最も多様な活動を行っている三刀屋地区の「躍動と安らぎの里鍋山」は人口1360人の集落である。「鍋山地区がどんな地域であれば良いか」子どもから高齢者までを対象とした記述式のアンケートの結果をもとに、安心して暮らし続けられる地域を目指した計画が作られた。地域の「生活を守る」「活性化させる」「維持する」ためのそれぞれのプロジ

◆地域自主組織

エクト（計画）は、アンケートの結果とともに絵本のように見やすいパンフレットで全戸に配布されていた。主な取り組みは、水道検針と高齢者宅訪問をタイアップさせた見守りや、大手コンビニエンスストアの移動販売車を利用した買い物

◆地域計画を達成するために会社を設立

農家や商店の経営者、行政職員ら80人の住民有志が立ち上げた会社「えくひだカンパニー」。集落営農と地域運営組織の機能を持ち、住民による住民のための株式会社として

て、多様な事業を展開していた。

きっかけは、比田地区が受け入れた農業志望の3人の地域おこし協力隊の行動力が生かされたからだという。多くの市民が関わってワークショップを繰り返し、88の地域ビジョンを作成。そのビジョ

◆まとめ

両組織はともに、生活者ならではの発想や課題を出し合い、地域の魅力発見につなげ、生きがいや充実を感じる活動ができていた。そこへ、若者の行動力が影響し、地域への思い、行政と対等な関係を保ち取り組まれていく住民自治実践事例が成果を上げていた。

本市においても、それぞれの地域がおかれた環境を改めて認識し、地域づくりへの取り組みを加速すべきと感じた。



地域計画を見やすいパンフレットに



地域ビジョンができるまでを説明する地域おこし協力隊員